

龍灯

第50号

発行所

大阪市史跡  
龍溪禪師墓所 雲龜山 九島院

〒550-0022 大阪市西区本田3丁目4番18号  
TEL 06(6583)2725 FAX 06(6583)0908

発行者 第二十五世住職 奥田啓知(智證)

# 団塊定年

## 定年後の人生設計とは?

戦後の高度成長を支えた世代（一九四七～一九四九年生まれ）が、二〇〇七年以降、毎年、大量に退職ラッシュを迎えます。この団塊定年が社会問題となるのは、技術継承、労働力不足による金破綻、熟年離婚など、さまざまの影響を与えるからです。夫の定年を機に妻が離婚を申し出る熟年離婚を題材としたテレビドラマ「熟年離婚」（テレビ朝日）が平均視聴率一九・二%の高視聴率を稼ぎました。また、年金分割制度改正（平成十九年四月一日施行）にともない、離婚後に夫の年金の半分を手にできることとなり、結婚二十年以上の熟年夫婦の離婚が増えます。主人在宅ストレス症候群」という病気が問題となっています。ストレスを感じ、妻に家にいきたいと定年になった夫が常に家にいて、体に変調が強いです。

「八大人覺經」というお経の中に、「多欲は苦なり、生死の疲労は貪欲より起こる、小欲にして無為なれば身心自在なりと覺知せよ」（欲望が多いことにはつらいことである）。一生の間に執着し、むさぼることによつて起こる。多くを望まぬ身心を保つことによつて、心身とも常によつて起きることあります。たまごの皮を剥ぎます。人間としての死に方、いいかえれば「納得の生き方」がやつてきます。人生の最後には、必ず「死」がきます。人間としての死に方、「大往生」のこと

をおこし、高血圧、胃潰瘍、肝機能障害など、さまざまな症状となつて現れるそうです。二〇〇四年の統計では日本人の平均寿命は男子七十八・六歳女子八十五・五歳です。六十歳定年後、十八年（二十五年といふ余命をいかに生きるか、それはますます社会の大きなテーマです）はますます社会の大きなテーマです。

「無為」とは何もしないことではなく、あるがままの姿を、ただむなしと嘆き悲しむのではなく、一人の人間として、生きていくことが大いに打ち込んでいくことが大事なのです。なかに、「世のためにはならないでしょうか。」とあります。

「無為」は「無事」ではありません。何事なのです。なかに、「世のためにはならないでしょうか。」とあります。たまごの皮を剥ぎます。人間としての死に方、「大往生」のこと



お寺が栄えることは檀信徒の皆様の喜びであり



九島院人物列伝②

## 桂三枝師匠と九島院

一稀代の落語家  
繁昌亭設立の功労者一

今夏、上方落語の定席「繁昌亭」が、大阪市北区の天満宮敷地内にオープンします。大阪の落語の寄席は、終戦前に姿を消してから、復活するのは、実際に六十年ぶりだそうです。

上方落語協会を率いるのは桂三枝師匠。「新婚さんいらっしゃい」をはじめテレビに舞台、映画などで活躍する一方、多くの新作落語を生み出し、創作落語のパイオニアとして文化庁芸術祭演芸部門大賞、上方お笑い大賞など数々の栄光に輝いています。三枝師匠は、本名を河村静也といい、中学生の時からは

港区の市岡に母親と二人でお住まいでした。先代弘忠和尚は、よく三枝師匠のことを話していました。河村家には、お盆にお参りをしていました。ただ、どういう理由で当院とご縁ができるのかは判りません。師匠が中学一年の時に、お母さんが再婚されました。義父も中学三年生で死別されそうで、そのお葬儀からともが載っていました。が載つていませんでした。

師匠は、市岡商業高等学校に進学し、そのころからテレビの芸能番組に漫才でよく出

好んで暇さえあれば、関西大学の「落語大学」のクラブボックスへ遊びに行っていたそうです。(家内の言)

先代弘忠和尚は、大の落語小文枝師匠のもとに弟子入りを機に内定しているのに、桂就職も内定しているのに、桂ら和尚に、やめるよう説得するというので、お母さんから和尙に、やめられたそうです。その後、河村家は池田の井口堂に転居されましたが、九島院の代参として、伊丹の常休寺の和尚(弘忠和尚の甥)が引き続き参っていました。

師匠が二十八才のとき、ラジオ番組「ヤングタウン」との高橋真由美との

三枝師匠に、挨拶方々その事をしてくれば、桂をお尋ねしましたが、「さあ、どうでしたかねえ?」と判らないようでした。小生も龍谷大学の落研出身で、弘忠和尚の目にかなったのかなと思います。稀代の落語家と縁のあつたことを当院の記録に留めるため、この記録に書きました。

三枝師匠に、挨拶方々その事をしてくれば、桂をお尋ねしましたが、「さあ、どうでしたかねえ?」と判らないようでした。小生も龍谷大学の落研出身で、弘忠和尚の目にかなったのかなと思います。稀代の落語家と縁のあつたことを当院の記録に留めるため、この記録に書きました。



○寺院案内の作製

目下、春彼岸発行を目標に、九島院の寺院案内を作っています。巡検(史跡めぐり)で来院に進学し、「落語大学」といふオチケンを創設し「浪漫亭ちっく」という芸名で大活躍されました。当时、当院のお彼岸の法要のあと、師匠が落語の一席をされたと古いあります。檀家の婆さんに聞いたことも

あります。手製のものはあります。しかし、九島院の宣伝と布教伝道活動にあたりたいと考えています。それぞれの漢詩は、小学生が師事している関西吟詩文化協会の原江龍先生、中谷松苑先生に吟じていただきCD録音をし、模絵の情感をより伝えようと企画しています。

兩先生は詩吟大会で全国的になられた先生方です。

# 話せば、心も軽くなる

## 仏教テレホン相談体験記



大阪仏教テレホン相談室で、昨年十月から月一度、相談員のボランティアを始めました。「話せば、心も軽くなる」とのキャッチフレーズで、仏事相談を筆頭に、さまざまな人生相談を、仏教十宗派の僧侶が交替で担当しています。その体験報告です。

(質問) 六十歳の女性。夫は六十五歳。二十年前から別居。夫は三軒隣の実家で暮らす。隣は息子家族が住んでいる。最近、二度目の離婚裁判をおこされ、調停が不調に終わった。別居期間は毎朝電話もくれるし、買い物にも付き合ってくれていたので、世間風潮になつたのでは。生活力もできたので、そんな風潮になつたのでは。夫婦より心の絆は深いと思つて、夫の気持ちが理解できな

い。(答え) 男女を問わず、六十歳という年齢は、人生の終末を考えるものです。やり直しのできる最後のチャンスなのです。昨今、熟年離婚が話題となっていますが、昔でも

誰しも考えたのではないでしょか。

現在は豊かになり、女性の実家からの手紙がもとで別居されたとのことです。二十年もの間、なぜ修復されなかつたのでしょうか。実家が寂しさを癒してくれる女性が出来るのは待つていていたのではありません。修復が不可能な段階だそう

からむと、問題が複雑になるので、二人だけで話し合い、解決されなかつたのですか。ご主人の優しさに甘えて、その寂しさに思いやらなかつたのではないか。ご主人は、煮え切らずにズルズルと別居の今の生活を送つて決して満足していません。

※相談は一時間半を要しました。奥さんは、ご自身の生き方に気づいておられるようできました。結論はでませんが、少しあはれな感じで少しは心も軽くなつたのではないかと思います。



「お釈迦さま」仏教童話絵本の表紙

の模絵も載せ、お寺の最新の情報を盛り込みました。

### ○模絵画題を漢詩吟詠

本堂に模絵を新調したため、傷んではいけないので法要などのとき撤去します

たいへんな作業です。

押し入れの模絵をはずすと中がまるみえですので、予備の模絵六面を新調しました。その六面に、それぞれの部屋に因んだ漢詩を、春秋会書家の高園柏邨先生に揮毫していただきました。将来的には、インターネットのホームページを作成

### ○絵本の製作頒布

小生の所属する大阪市仏教大会大阪青少年教化協議会で、創立四十周年を記念して、「お釈迦さま」という絵本（左絵）を製作しました。

書店でも、定価千円で販売していますので、一度ご覧下さい。お釈迦さまの生涯をわかりやすく表現しています。なお、説明文は英語とヒンズー語でも書かれています。とてもユニークな絵本です。春彼岸法要の施本として参詣者に配付の予定。

ご開山龍溪禅師の喜び、誰よりも御本尊の喜びです！

# 編集後記

## ●落書き

この正月三日、朝のお勤めの折り、お向かいの浄土真宗のお寺の掲示板に数人の人ばかりができていました。

なにごとかと覗いてみると、掲示板のうえに、ガムテープで落書きが張りつけてあったのです。それには、「クソ坊主、バーカ、何を訳のわからんことを書居る（もっと修行せい）※原文どおり」とあります。なぐり書きでしたが、年配の者が書いたようでした。どうやら、お寺の掲げた伝道文書が気に入らないようです。

し せっしゅふ しゃ

それには「初春や光 身に沁む 摂取不捨」と俳句が書かれていました。他の真宗寺院にも同じものが貼ってあり、教団本部からの印刷物でした。

その意味は、「肉眼では見えないけれど、如来さまの光が念仏する衆生の身に沁みこんでいる。阿弥陀如来はどんな衆生もお救いになり、けっして捨てることはできませんよ。」というものでした。

あるお寺で、夜に掲示板が大きな石で叩き割られたそうです。それには「働け 働け もっと働け」と書かれており、その文句に腹をたてた通行人がしたようで、失業中か、働きたくても何らかの事情で働けない人が石を投げたようでした。

当院でも、ずいぶん前のことですが、「人間は二度生まれる。一度は母から・・」という文言に、ある新興宗教の信者の女性が文句をつけてきたことがありました。

その一言が人生をかえることがあります。ましてや書かれたものも、読み手にその真意がつたわらなければ、掲示伝道の用がはたせません。自戒しなければと思います。

「つまづく石も縁のはしばし」惜しむらくは、落書きではなくお寺の門を叩き仏縁を結び、摂取の光を感得されんことを祈りたいものです。



ご  
案  
内

## 山門会・お彼岸法要

3月23日(木)  
午後1時半より

※ご先祖供養です。宗旨に關係ありません  
ご回向お申し込み下さい。

九島院宝物「中國山河圖披露」

▼「一寸先は闇」とはよく言つたものであります。昨年あれほど持て囃されたホリエモンが、破滅の崖っぷちに追いやりています。

▼丁度、ヒューザーの小嶋社長の国会での証人喚問と同じ日に、ライブドアに検察の強制捜査が入りました。

▼マンションの耐震強度「偽装」、今度は「偽計」取引。

相田みつお氏の詩に、「人のためと

書いていります。両者とも自己の利益のために嘘を重ねた結果なのです。

▼「うそつきてあとあじわるきみずからにべんかいのうそさらとにかくさねつ」という詩もあります。

▼人は騙せても、自分自身は決して騙されることはできません。よほどの悪人は、嘘をつくことはできます。別にして、たいがいの人は、嘘をつくことはできません。

▼知つていながら悪い行いをするのと知らずにするのとでは、どちらが禍(だま)がひどい火傷(やけど)をするから、つけた鉄丸を、知らずに撲んだ者と、前者のほうがひどい火傷(やけど)をするから、

と説明をしていきます。

▼両者ともきっと悪事を知つていて行つたような気がしたい。まだ、真人間行に立ち返る余地があるからです。

▼小紙も今回で五十号になりました。五十年忌で弔い上げにならぬよう、引き続き精進していく所存です。

ますが、世間の常識では、知つていて悪事をするほうが罪は重いとします。▼仏典には、知らずに撲んだ者と、前者のほうがひどい火傷(やけど)をするから、